

諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす」改善案

アンケート結果等から見た主な課題について

- ①市民活動団体に関する情報の把握・活用（多くの団体が地域と連携した実績を持っている）
- ②地域等へのUMECO及び市民活動団体の周知（地域へのUMECO事業や団体についての認知度が低い）
- ③コーディネートと相談に係る体制の充実（地域で活動したい団体はコーディネーターを必要としており、地域は気軽な相談窓口を求めている）
- ④地域のニーズの把握・周知（一定数の団体が「地域のニーズが分からない」ことを連携が進まない原因としている）
- ⑤市民活動団体と地域の交流機会の設定（一定数の団体が地域との活動促進に「地域と交流する機会」が必要としている）
- ⑥多様な主体と市民活動団体の連携の促進（団体は連携の相手先として様々な主体を希望している）
- ⑦市民活動の担い手の確保（地域での活動に消極的な団体の一定数が「高齢化」や「人員不足」をその理由としている）

No	課題	改善案	想定するスケジュール
1	① ②	UMECO登録団体を対象に、年1回、簡易なアンケート調査を実施し、団体と地域の活動実績等を収集する。結果については、UMECOだよりに連携事例として掲載するなど、団体への支援に活用する。 設問例：地域での活動実績、他主体との協働実績、今後の希望 ※登録更新手続きと同時に行うと、団体の総会の時期と重なり、回答率が低くなる恐れがあるため、本アンケート単独で実施する。	令和3年7月まで：設問や回収方法の検討 8月：アンケート用紙の送付 (UMECOだよりに同封) 9月：集計・分析 結果を団体への支援に活用
2	②	現状では施設の紹介がメインになっているUMECOのパンフレットを改訂し、機能や事業の紹介を掲載する。最新の計画を反映するため原則として年度ごとに改訂し、A3版の2つ折りにするなど十分な紙面を確保する。	令和3年度中：掲載内容の検討 パンフレット発行
3	②	団体が自作した紹介動画をUMECOホームページの「登録団体のご紹介」内に掲載する。ある程度の動画数が集まったら、Hello!UMECOのカテゴリーに準じて集約したページを作成する。	令和2年9月：団体向け動画講座（実施済） 10月以降：動画受付・掲載開始 提出状況に応じ集約

No	課題	改善案	想定するスケジュール
4	②	地域活動シンポジウムにおいて、UMECOがコーディネートした団体から、地域課題の解決事例を発表する。	令和3年上半期 : 発表の準備(事例収集等) 令和4年1月 : シンポジウムにて発表
5	② ③	各地域に出向き、UMECOのPRを行う。令和2年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響で地域コミュニティ組織の会議に出席できなかったが、順次再開する。 (令和元年度にPRした地域: 酒匂・小八幡(2回)、橘北、前羽(2回) 上府中、万年) PR内容: 地域課題の解決を目指し、地域活動団体ネットワーク形成事業等を実施していること 気軽に相談できる窓口を有していること	令和2年11月以降: 順次再開
6	② ③	UMECOだよりに「地域枠」を確保し、以下のように掲載する。 ・地域課題の解決事例(UMECOがコーディネートしたもののほか、アンケート調査等で収集した団体独自の取組を含む)を掲載し、地域へのUMECOや団体の周知を図る。事例が多く収集できれば、地域活動団体ネットワーク形成事業のみの臨時増刊を発行し、地域コミュニティ組織に配布することを検討する。 ・地域からUMECOに気軽に相談できる関係づくりのため、地域活動取材し掲載する。	令和3年3月まで: 市からUMECOに地域の 行事予定表を提供 4月 : 「地域枠」掲載開始 8月頃 : 簡易アンケートにより団体 独自の取組を情報収集
7	② ⑦	モデル事業として、地域を限定して出前講座(講座だけでなくイベント開催も対象)を行う。 担い手の確保のため、枠組みに若者を組み込めないか検討する。 例: 団体が地域のニーズに応じ防災や福祉のイベントを開催し、大学や企業でボランティアの協力を募る。	令和3年4月まで: 地域の選定、ニーズ調査 5月 : 団体の選定、両者の打合せ 6月以降: 大学や企業への働きかけ 出前講座開始
8	③	UMECO企画展として、ホワイエが空いているときに地域活動の紹介を展示し、地域からUMECOに気軽に相談できる関係づくりを目指す。	令和2年度中 : ホワイエの空き状況により 随時
9	③	UMECOにおいて、地域と団体のコーディネートが可能な職員を増やすため、以下を検討する。 ・職員向け研修会の実施(内部講師のほか、中間支援組織等の外部講師による) ・相談対応のマニュアル化やデータベースの活用	令和2年度中 : 内部講師による研修会 令和3年度以降 : 外部講師による研修会 データベース蓄積、 マニュアル化

No	課題	改善案	想定するスケジュール
10	③ ④	自治会総連合とUMECOのホームページを以下のとおり連携させる。 ・両ページに相互リンクを設置する。 ・自治会総連合側にもHello!UMECOの紹介ページを掲載し、UMECO側の当該ページへのリンクを貼る。 ・地域から気軽に相談できるよう、UMECO側のHello!UMECOの紹介記事にメールフォームを設置する。	令和2年度中 : 相互リンク設置 Hello!UMECOの紹介ページ掲載 メールフォーム設置
11	③ ⑥ ⑦	Hello!UMECOについて、以下のように変更する。 ・地域から気軽に相談できるよう、相談窓口のPRを掲載する。 ・団体と地域だけでなく、団体間等のより幅広い連携や団体の会員募集にも活用できるよう、原則として全ての登録団体を掲載した上で、地域活動団体ネットワーク形成事業への協力団体とその他の団体を区分するなど、表示を工夫する。 ・上記により、生涯学習活動に係る情報冊子「自分時間手帖」と重複する団体が増えることから、所管課と調整し、今後の方向性を検討する。	令和3年9月 : 冊子発行時に相談窓口追加、 全団体の掲載、 連携区分の明記 (並行して、生涯学習所管課との調整を行う。)
12	④	地域政策課内で各地域のニーズを集約してUMECOに提供し、UMECOのホームページに以下を掲載するとともに、個別に地域と団体をコーディネートし、課題解決につなげる。 ・地域のニーズ一覧 ・団体向けのボランティア募集記事	令和3年3月 : 地域政策課内で集約したニーズをUMECOに提供 4月 : 連合会長会議などで周知 ホームページ掲載や個別のコーディネート開始
13	④	市立小中学校に対し、年1～2回、UMECOからメールを送り、ニーズを収集する。 内容：団体と連携したいことがあれば返信を求める。 参考に、連携事例やニーズ一覧があれば添付する。	令和3年4月 : 校長会等で協力依頼 5月以降：メール配信

No	課題	改善案	想定するスケジュール
14	⑤	アンケート結果や地域政策課内の情報から各地域に共通する具体的なニーズ（子ども食堂、落書消しなど）を見つけ、テーマとして設定したわくわく交流会を試験的に実施し、地域コミュニティ組織からも参加を募る。一定の効果が見られれば、地域と団体に特化した、テーマ設定型の交流会を新規で実施する。 なお、新春交流会については団体同士の交流を主たる目的とし、地域との交流については上記のわくわく交流会やテーマ設定型の新規交流会において促進する方向で検討する。	令和2年度中 : テーマ設定 令和3年5月 : わくわく交流会実施 効果検証 (テーマを再選定し、新規交流会実施) 令和4年1月 : 新春交流会(団体同士の交流)
15	⑥	地域や学校との連携を行う団体に対する、UMECOからの一部費用(燃料費、交通費、材料費など)の助成を検討する。財源については、スポンサーを募ったり、UMECO市民活動応援補助金と共通のものとする 것을検討する。	令和2年度中 : 制度内容の検討 スポンサー募集チラシの作成 令和3年4月 : スポンサーの募集開始 10月 : 助成開始
16	⑥	小田原市またはUMECOの市民活動応援補助金の中で、次の検討を行う。 ・「市民活動団体が他の団体や事業者、地域コミュニティ組織等と協働で事業を行う」コースの追加 ・「市民活動団体が特定の地域コミュニティ組織等と連携して実施する社会貢献活動」の補助対象事業への追加	令和4年9月まで : 制度内容の検討 10月 : 募集開始
17	⑦	UMECOの役割を知らない市民(特に若者)向けに、市広報やフェイスブック、ツイッターで情報を発信するほか、配布するチラシ等にはQRコードを掲載する。	令和2年10月から : 検討、随時開始